

各社の考え方

□ 算定を行う背景・目的

- サプライチェーンを取り込んだ温暖化ガス排出量を把握することで重点分野の設定につなげるとともに、長期的目標を設定に役立てる。

□ 算定結果の活用方法

- 各々の活動が全体に占める割合を把握しながら、対策を講じるための材料のひとつとして用いる。
- 環境報告書等での情報開示と算定の結果を社内共有することで、社員1人1人の業務・行動がどのような環境負荷と結びついているのかを認識させる。

□ 算定のメリット

- 自社の取組を経年的に評価することで、次の目標が立てやすくなる。
- 事業活動を行う上で温暖化対策への貢献度を把握するとともに、排出量の観点から何を、自社として取り組むべきかを明確化できる。
- Scope3の考え方を踏まえて、購入先様に温暖化ガス削減の取り組みを要請することにより、購入先様が自らの排出量を把握し、自ら削減取り組みを展開して頂く活動に結びつけられる。

□ 社内の算定体制

- 全体とりまとめ：本社の環境部
- 情報提供：各部門、連結子会社、サプライヤー
住宅建築に基づく資材、エネルギー、廃棄物
設計仕様に基づく建築物の使用時のエネルギーデータ等

各社の考え方

□ サプライチェーン
排出量の削減に
向けて

- 各カテゴリの排出量の大きさから判断すると、製品の使用、資源の調達が大きな割合をしめている。製品の使用における排出量の削減を推進中。

□ サプライチェーン
排出量算定の課
題

- 今後拡大していく予定の海外事業における把握体制の構築及び海外パフォーマンスデータについて、産業連関表に基づく原単位の整備
- データを自動的に把握できるしくみを構築する必要がある。(算定に時間がかかる)

□ その他(任意)

- 「原材料や資源の調達」については、購入先についての環境負荷の低減を、購入先と協力しながら推進している。
- 「製品の使用」については、製品である住宅の居住段階の排出量の削減を商品開発のテーマに盛り込み推進している。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> ● 原材料・資材の調達量(金額及び物量ベース) ● 現場建機エネルギー使用量 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2) ● プレハブ建築協会環境行動計画「エコアクション2020」の建設現場のCO2算出基準および独自の指標から算出
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> ● 資本財の金額 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気・蒸気のエネルギー使用量 	<ul style="list-style-type: none"> ● カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベース(ver.1.01)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 荷主分の輸送に係る輸送トンキロ ● サプライヤー輸送による輸送トンキロ 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2) ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> ● <処理> 廃棄物種類別排出量 ● <輸送> 資材量 × 平均輸送距離 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2) ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通費支給額 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤交通費支給額 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1,2で算定 	-
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 提供している製品は不動産であるため、製品の輸送はない 	-
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設工事の延床面積 	<ul style="list-style-type: none"> ● プレハブ建築協会環境行動計画「エコアクション2020」の建設現場のCO2算出基準および独自の指標から算出
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売棟数 × 年間消費電力量 × 使用年数60年 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気事業者別のCO2排出係数 代替値

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> 販売棟数 × 資源使用量(キープラン) 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ13「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> 自社保有の賃貸物件の床面積 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> 持分法適用会社におけるScope1,2 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> 投資先のCO2排出量が開示されていない事と推定結果が影響を与えない微量のため、算定に含めない 	—
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> オプションカテゴリのため除外 	

算定結果

